

インターネットの



に答える



今月の回答者

砂原秀樹 + 編集部

【アドバイザー】砂原秀樹
奈良先端科学技術大学院大学
情報科学センター助教授
WIDEプロジェクト・ボードメンバー

このコーナーでは、皆さんから寄せられたインターネットに関する質問や疑問にお答えします。分からないことや疑問はどんなことでもけっこうですので、編集部までお寄せください。メールアドレスは ip-faq@impress.co.jp です。なお、質問へのメールでの回答はできませんのでご了承ください。

今月のヘッドライン

- 1 プロバイダー接続マップの読み方
- 2 情報フィルタリングシステムの仕組み
- 3 ISDNのユーザー宅工事の有無

Q

巻末に載っているプロバイダー接続マップのバックボーンの容量の意味が分かりません。プロバイダー選びの参考にしたいのですが、接続速度とどのような関係があるのでしょうか？

(鬼頭 幸弘さん)

A

プロバイダー接続マップにおいての「バックボーン」とは、プロバイダー同士をつなぐ高速なネットワークを指します。そして、通常「接続速度」とは、ユーザーがプロバイダーに接続するときの速度を言います。

98年5月号の本誌特集「戦乱! 800社時代の後悔しないプロバイダー選び'98」にも詳しく解説してありますが、バックボーン容量は大きければ大きいほどよいと言えるでしょう。たとえば、あるプロバイダーが上

位プロバイダーに接続するために使っているバックボーン容量が64Kbpsの場合、ユーザーがISDNを使って64Kbpsで接続すると1人だけでいっぱいになってしまいます。もしバックボーンが6Mbpsならば、単純計算で約96人が64Kbpsで接続することができ

るのです。しかし、バックボーンの容量が大きくても、利用するユーザーの数が多ければ各ユーザーに割り振られる帯域がどんどん狭くなるので、そのプロバイダーを利用するユーザーの人数も考える必要があるでしょう。(編集部)



バックボーンの容量に注目

プロバイダー接続マップの読み方

Q

インターネットエクスプローラに有害なサイトを表示しないようにする「コンテンツアドバイザー」という機能がありますが、この有害無害は誰が決めるのでしょうか？ 試しに使ってみたら、いつも見ている人畜無害なページまでブロックされてしまいました。

(匿名希望)

A

誰もが自由に情報発信できることが、ウェブの1つの利点です。しかし、その結果として制御されていない情報が流通し、誰もが公序良俗に反すること特に犯罪に関わる可能性も出てきてしまっていることは、1つの問題であるわけです。こうした問題に対する1つの解として示されているものが、「コンテンツアドバイザー」に代表される情報フィルタリングシステムです。

場面や状況によってこうしたシステムが有効であることは事実ですが、このような規制が行きすぎると「言論の自由」に対する圧力といった問題をはらむことになります。いくつかの国においてはこうしたフィルタリングシステムを経由しない情報を見ることを犯罪としています。国による情報統制になってしまっはならないと考えられます。

というわけで、ウェブ上の「情報に対する評価」を行っているのはどこなのかということが問題となってきます。資料によると、インターネットエクスプローラ(IE)の「コンテンツアドバイザー」には、Recreational Software Advisory Council on the Internet (RSACi) という非営利団体が関わってい

情報フィルタリングシステムの仕組み

ることがわかりました。この組織は、ウェブ上の情報に対して「暴力的内容」「性的内容」「スラングによる表現」などの観点から評価を行いランク付けをしています。ですから、こうしたランク付けにしたがって、情報を分類しIEの設定と照らし合わせて、表示してよい情報を選択しているわけです。

ところで、インターネット上には大量の情報が置かれています。これらすべてに目を通し、正当な評価を行うことはまず不可能でしょう。そこで、以下のようなシステムが組み込まれていると考えられます。残念ながらこのあたりの仕組みについて記述した文書を手に入れることができなかったため、これは推測です。しかし、おそらくこうなっていると推測されます。

ウェブの情報を数多く収集しているシステムという、検索エンジンが挙げられます。このシステムは、ロボットという仕組みによってウェブに置かれた情報を収集しているのです。このロボットはまず、あるページのURLを与えると、そのページを取り出してきて、そこに書かれたリンク情報(URL)を集めます。あとは、集められたリンク情報をもとに、それらのURLに示されたページを取り出し、そこに書かれたURLを集めるという作業を繰り返すことで、芋づる式にウェブに置かれた情報を収集しているのです。このようなシステムは、ネットワークを

過負荷にするという問題があるため、一般のユーザーが行うことは推奨されていませんが、検索エンジンは多くのユーザーの代わりに情報収集を行うものとして、こうした仕組みを使うことを許されているわけです。

さて、こうして集められた情報に対して例えば「暴力」とか「Sex」といったキーワードで検索を行うと、問題となりそうな情報を含んでいるページの候補が列挙できるわけです。あとは、「疑わしきは罰せず」なのか「疑わしきものは有罪」なのかはその方針によって異なりますが、こうした候補全部を制限の対象としたり、候補を閲覧して実際に問題となるページを制限の対象にしたりしていると考えられます。

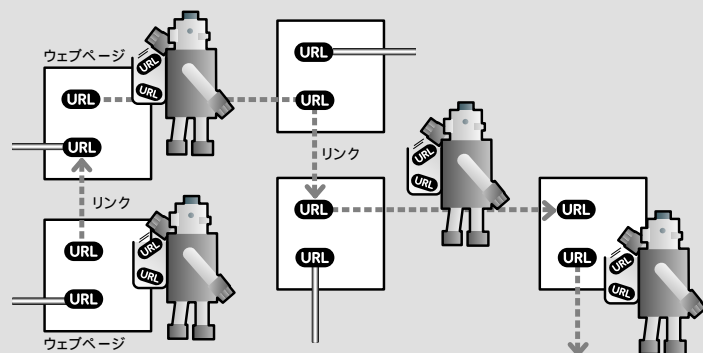
このような仕組みを使っていると、場合によっては単に選択されたいくつかの単語を含んでいるか否かというだけで情報の区分けが行われるため、質問にあるとおり、実際には問題になるとは思えない情報に対しても制限がされたり、逆に問題のあるページが制限の対象となっていなかったりする可能性もあるわけです。

いずれにせよ、現状ではこうした機械的フィルタリングと人海戦術によるフィルタリングの両方の仕組みが併用されているようです。これは非常に難しい問題であり、今後も技術的そして社会的検討を進めていかなければならないでしょう。



Recreational Software Advisory Council on the Internet (RSACi) のホームページ

URL <http://www.rsac.org/>



ロボットによるWWWページ収集の仕組み

Q

インターネットマガジンに「NTTの工事担当者が自宅まで来なくてもISDN化工事が完了する」とあったので、NTTに申し込みました。ところが、「工事に来なくてもいい」と伝えなのに「必ず行く必要がある」と言われ、自宅まで工事に来られてしまいました。なぜなのでしょう？（東京都 松田さん）

A

本誌98年3月号の特集「完全なるISDN導入計画」の記事では、「アナログ電話からISDNに切り替える場合は屋内工事は必要ないので、会社を休んだり家族を待たせたりしなくてもOK!」と紹介しました。

では、なぜ「必ず行く必要がある」と言われてしまったのでしょうか？ NTT広報部の山本秀之さんに、ISDN工事の実際についてうかがいました。

「ISDN工事については、お客様からの申し込みの後に、必ずお電話でコンサルティングを行っておりますので、この時に現時点でどのようにお使いなのか、またどのようにISDNをお使いになりたいのかを確認しています。

当然のことながら、これまでに電話を引いたことがない場所に新規にISDNを導入する場合は、もちろん屋内配線工事が必要になります。また、お客様の希望で新たに引き込み口のローゼットを増設する場合な

ISDNのユーザー宅工事の有無

ども、工事がが必要です。

現在お客様がお使いのアナログ電話からISDNに切り替えるときは、基本的な屋内配線は完了していますので、あらためて工事を行う必要はほとんどの場合ありません。ISDNが普及する以前には、回線の極性が反転しているなどの理由で工事に伺うこともありましたが、現在はおお客様がお持ちのTAやダイヤルアップルーターで極性反転ができますので、電話局側の交換機の工事が完了すればすぐにご利用いただけます。

ただし例外もあります。現在、電話局の側からお客様宅までの回線の状態を検査できるようになっています。この時に「抵抗値が通常より高い」といった異状が見つかった場合は、お客様のお宅までうかがって回線チェックをしたうえで工事を行うことになります。

このように、各ケースによって対応が異なりますので、“絶対に行かなければならない”とも、“行く必要は絶対はない”とも言い切れません。工事担当者の説明が足りなかったのかもしれませんが、工事に伺うにはなんらかの理由があったと思われる。」

……ということで、「基本的にはユーザ

一宅の工事は必要ないが、まれに工事を行わなければならないケースもある」というのが本当のようです。

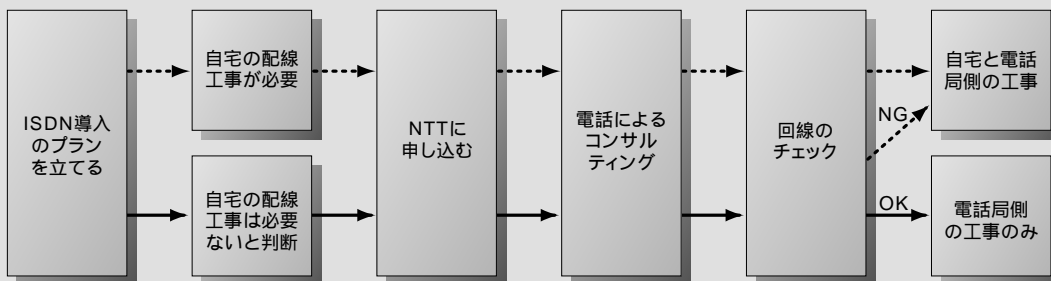
NTTのISDNオフィシャルページには、「導入にあたってのチェックポイント」や申し込み方法がわかりやすくまとめられているので、申し込む前にチェックしてみてください。

そして電話やホームページで申し込んだあとのコンサルティングで、現在の電話利用状況を説明して、工事に来なくてもいいという旨をきちんと伝えること、また「工事が必要」と言われた場合は、なぜ必要なのかを確認するとよいでしょう。（編集部）



NTT ISDNオフィシャルページ
URL <http://info.ntt.co.jp/ISDN/>

ISDN導入までの手順





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp